

道徳科学習指導案（パッケージ型）

学習者 附属小学校 2年1組 30名
指導者 平井 麻理

単元名 「みんなでピース」になるために

1. 単元目標

友達とのより良い関りについて、困っている人に対する行動を様々な立場の人達の視点で考えたり、自分のこれまでの経験を振り返ったりすることを通して、よいと思うことを進んで行おうとする判断力や、お互いを認め合い、友達と仲良く助け合っていこうとする態度を養う。

2. 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

誰に対しても公正、公平な態度で接することは、差別や偏見のない社会を実現していくために大切なことである。低学年の子どもたちは、相手のよいところに目を向け、受け入れようとすることはできる。しかし、自分の好みや利害にとらわれず、相手と接することが難しい。本教材では、自分と相手との見目の違いから相手への態度を変えてしまった、登場人物の行動と自分の行動を照らして考える中で、誰に対しても態度を変えないで接することの難しさについての問題意識をもつことができる。そして、子どもは、学習課題を解決する中で誰に対しても態度を変えないで接することで交友関係が広がったり、深まったりすることに気づき、好き嫌いとらわれず誰に対しても公正、公平な態度で接していく道徳的実践意欲と態度を養えるようになる。

(2) 児童の実態【児童観】

本学級の児童は、ペア活動やグループ活動で積極的に自分の意見を発信することができる。「Win-Win しあわせ」をクラステーマとして、学級会や、1日のめあて決めの際には「互いに笑顔になるために」という視点で考えている。「Win-Win しあわせ」になるために、クラスレクリエーションについて計画したり、キャラクター作りを提案したりするなど、何事も主体性を持ち、みんなで成長したい・協力していきたいという思いを持っている児童が多く見られる。

2年生への進級・クラス替えに伴い、2年1組での新しい人間関係を構築してきた。また、フリートークなどの中で知らなかった友だちのことを知ることに喜びを感じている児童もいる。しかし、1年生のときに同じクラスだった友だちばかり関わる姿も見られる。互いの考え方が違うことも認識しており、考え方の違いからぶつかり合うこともある。

内容項目は、苦手なことがある友達のことを理解し、一緒に活動することの楽しさに気付ける「友情、信頼」や、一人一人に違いがあっても、誰もが同じ集団の一員として平等な存在であることに気付ける「公正、公平、社会正義」とし、教材は「やさいむらの こどもたち」とした。

(3) 教材の特質と活用方法【教材観】

本教材の「やさいむらの こどもたち」は、同じ野菜という仲間でありながら、ちがいにとらわれて、仲良くできないでいた。しかし、きゅうりの発言により、「やさいむらの こどもたち」は自分たちの偏った考えに気づいていく。子どもたちは、「やさいむらの こどもたち」に自分を重ねていくことによって、追体験的に公正・公平に人と接することのよさを学ぶことができる教材である。また、仲良く遊ぶ「やさいむらの こどもたち」の姿から、好き嫌いとらわれることなく友達や仲間と仲よくする心の大切さを知ることができる。

3. 指導計画（全4時間）

時	教科	内容項目	ねらい
1	道徳科	A-1 善悪の判断、 自律、自由と責任 ※関連 B-10 友情、信頼	正しいことを進んですることのよさについて、「ぼく」の気持ちや行動を話し合ったり、自分の経験を振り返ったりする活動を通して、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする判断力を育てる。
2	道徳科	B-10 友情、信頼 ※関連 C-13 公正、公平、 社会正義	友達と助け合うことについて、こんきちや森の動物達の気持ちや行動を話し合ったり、自分の経験を振り返ったりする活動を通して、友達と仲良く助け合っていこうとする態度を育てる。
3	道徳科 (人権)	C-13 公正、公平、 社会正義 ※関連 B-10 友情、信頼	最後に野菜たちがみんなで楽しく遊ぶことができた理由について、それぞれの野菜の立場で考えたり、友達と意見を交流したりするを通して、自他の違いを受け入れ、好き嫌いにとらわれずに誰とでも仲良く過ごそうとする態度を育てる。
4	学級活動	※関連 A-1 善悪の判断、 自律、自由と責任 B-10 友情、信頼	自分達のクラスを「みんなでピース」を達成するクラスにするために、よいと思うことを進んでしたり、友達と助け合ったりする方法について話し合うことを通して、今後の友達との関わり方で気を付けることを考えられるようにする。

3. 学習指導過程（1/4）

教材名 おれたものさし 出典 新しいどうとく2 東京書籍

内容項目 A-1 善悪の判断、自律、自由と責任（関連する内容項目 B-10友情、信頼）

本時のねらい	正しいことを進んですることのよさについて、「ぼく」の気持ちや行動を話し合ったり、自分の経験を振り返ったりする活動を通して、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする判断力を育てる。
評価の着眼点	正しいことを進んですることのよさについて、「ぼく」の気持ちや行動を話し合ったり、自分の経験を振り返ったりしているかどうか。
具体的な児童の姿	のぼるは悪いけど、自分だったら怖くて言えないな。 勇気を出してよいことを進んですることは大事だな。

時間	児童の活動	指導○および留意点・ ◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て
5分	1. 本時のめあてを確かめる。	<p>○「みんなでピース」なクラスになっているか問い、児童のまだ完璧にはなっていない等の言葉から、「みんなでピース」なクラスになるために、これから道徳や学活で学習していくことを伝え、本単元のめあてや本時のめあてを提示する。</p> <p>・「みんなでピース」になることを進んでできているか問い、どうしたら進んでできるようになるかという視点を持たせてから読み聞かせをする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>めあて 「みんなでピース」なクラスを目指すために大切なことを考えよう 【本時】よいと思うことをどうしたらすすんでできるか考えよう</p> </div>		
10分	2. 教科書の内容を確かめながら、どきとした「ぼく」の気持ちを考える。	<p>○教科書を範読し、どきとした「ぼく」の気持ちやその理由を考えるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>基本発問 むねがどきとした「ぼく」はどんなことを考えていたかな？</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【想定される児童の姿(発言)】 (とめよう) ・自分もされて嫌だった。 ・ひろしがかわいそうだ。 (とめられない) ・また自分が嫌なことをされそう。 ・のぼるが怖い。</p> </div> <p>・善悪の判断だけでなく、よくないことは分かっているながら、行動に移すことの難しさを捉えられるようにする。</p> <p>・自分だったら言えそうかを問い、自分事として考えられるようにする。</p>
5分	3. 「ぼく」がものさしをのぼるにわたすことができた理由を考え、ワークシートに書く。	<p>○迷いがありながら、「ぼく」がのぼるにものさしを渡すことができた理由を問い、ワークシートに自分の考えを書くようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>中心発問 どうして「ぼく」はのぼるにものさしをわたすことができたのかな？</p> </div> <p>・理由が一つとは限らないことを伝え、多面的に考えられるようにする。</p>

15分	4. 「ぼく」がものさしをのぼるにわたすことができた理由を話し合う。	<p>【想定される児童の姿(発言)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このまま何もしないとひろしが疑われるから。 ・のぼるが悪いことをしているから。 ・このままだとみんなが嫌な気持ちになると思ったから。 <p>※このままだとひろしやクラスがどうなるか考えることで、「ぼく」の思いに気づくようにする。</p> <p>○ペアや全体で考えを出し合うことで、思いを共有したり、考えを多面的に捉えたりできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」の迷いのもとである、自分が嫌な思いをするかもしれないことを児童に問い、「ぼく」の勇気や覚悟に気づくようにする。 <p>補助発問</p> <p>自分が嫌なことをされてもいいのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったらできそうか問い、周りのサポートの重要性に気づくようにする。 ・気付かなかっただらどうなるのかを考えさせることで、「おかしさに気付く」ことが大切であること、それに気付かなければ友達には悲しいままであること、またよいことを進んで行う良さを確かめる。
10分	5. よいことを進んで行うときに大切なことを考える。	<p>○今日の学習を振り返り、自分がよいことを進んで行うときに大切なことをワークシートに書くようにする。</p> <p>基本発問</p> <p>よいことを進んで行うときに大切なことは何かな？</p> <p>【想定される児童の姿(発言)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いやな思いをしている人の気持ちを考える。 ・勇気を出して困っている人を助ける。 ・よいこととよくないことを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・よいことを行う立場、よいことをしている人を見た立場等、様々な立場で考えるようにする。 ・友達と助け合っていくことの大切さを確認して、次時の学習につなげる。

4. 学習指導過程（2/4）

教材名 森のともだち 出典 新しいどうとく2 東京書籍

内容項目 B-10友情、信頼（関連する内容項目 C-13 公正、公平、社会正義）

本時のねらい	友達と助け合うことについて、こんきちや森の動物達の気持ちや行動を話し合ったり、自分の経験を振り返ったりする活動を通して、友達と仲良く助け合っていこうとする態度を育てる。
評価の着眼点	友達と助け合うことについて、こんきちや森の動物達の気持ちや行動を話し合ったり、自分の経験を振り返ったりしているかどうか。
具体的な児童の姿	自分のことだけを考えるとやっぱりよくないな。 森の動物たちはみんなのことをよく考えて助け合っているんだな。

時間	児童の活動	指導○および留意点・ ◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て
3分	1. 本時のめあてを確かめる。	○前時の学習を振り返り、めあてを提示する。 ・友達を助けた、または助けられた経験を問い、自分事として捉えるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>めあて 「みんなでピース」なクラスを目指すために大切なことを考えよう 【本時】ともだちとたすけあうために大切なことを考えよう</p> </div>		
15分	2. 教科書の内容を確かめながら、どうして森の動物たちがこんきちを助けようとしたかを考える。	○教科書を範読し、森の動物たちがこんきちを助けようとした理由を考えるようにする。 ・こんきちを助けるべきか問うことで、より深く助けようとした理由について考えるようにする。 ・我儘で乱暴なこんきちを助けたくないという気持ちにも共感するようにする。 ・すぐに助けに行かず、相談し悩んだ結果助けに行っていることを取りあげ、難しい行動であることを捉えられるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>基本発問 どうして森のどうぶつたちはこんきちをたすけようとしたのかな？</p> </div>		
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>補助発問 森のどうぶつたちはこんきちをたすけるべきなのかな？</p> </div>		
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【想定される児童の姿(発言)】 (助けるべき) ・こんきちも友達だから助けないといけない。 ・助けないとこんきちがおおかみに食べられてしまうから。 (助けるべきでない) ・自分達も食べられてしまうかもしれない。 ・こんきちを助けてもまた乱暴されるかもしれない。</p> </div>		
5分	3. 戻ってきたこんきちが泣きだした理由を考え、ワークシートに書く。	○こんきちが泣き出した理由を問い、ワークシートに自分の考えを書くようにする。 ・理由が一つとは限らないことを伝え、多面的に考えられるようにする。

<p>15分</p> <p>4. 戻ってきたこんきちが泣きだした理由を話し合う。</p>	<p>4. 戻ってきたこんきちが泣きだした理由を話し合う。</p>	<div data-bbox="571 129 1374 241" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中心発問 もどってきたこんきちはどうしてなきだしたのかな？</p> </div> <div data-bbox="571 264 1492 517" style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>【想定される児童の姿(発言)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のせいでびよんこがけがをってしまったから。 ・助けてくれたみんなを置いてにげってしまったから。 ・みんなはけがをしたびよんこを助けていたのに自分は何もしていないから。 ・自分のことだけ考えていたのは悪かったと思ったから。 </div> <p>※「ごめんよ、ごめんよ。」の言葉に着目させ、何について謝っていたのか考えるようにする。</p> <p>○ペアや全体で考えを出し合うことで、思いを共有したり、考えを多面的に捉えたりできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんきちと森の動物達を比較して、こんきちの弱さだけでなく、森の動物達の助け合う意志の強さに気付くようにする。 <p>○友達と助け合うときに大切なことは何かという視点で振り返るようにする。</p> <div data-bbox="571 981 1492 1093" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>基本発問 ともだちとたすけあうときに大切なことはなにかな？</p> </div> <div data-bbox="571 1115 1492 1346" style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>【想定される児童の姿(発言・記述)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけでなく、周りのことを考えること。 ・誰かが困っていたらそのままにせずに助けること。 ・一人じゃ難しくても諦めずに友達と協力すること。 ・好き嫌いだけで判断しないで誰でも助けること。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・助けられる立場、助ける立場、助けている場面に出会った立場等、様々な立場で考えるようにする。 ・好き嫌い関係なく誰とも助け合っていくことの大切さを確認して、次時の学習につなげる。
<p>7分</p> <p>5. 本時の振り返りをする。</p>	<p>5. 本時の振り返りをする。</p>	<p>○友達と助け合うときに大切なことは何かという視点で振り返るようにする。</p>

5. 学習指導過程（3/4）

教材名 やさいむらのこどもたち 出典 小学道徳 ゆたかな心 光文書院

内容項目 C-13 公正、公平、社会正義（関連する内容項目 B-10友情、信頼）

本時のねらい	みんなが楽しめるようにするために大切なことについて、やさい村の子ども達の気持ちや行動を話し合ったり、自分の経験を振り返ったりする活動を通して、好き嫌いとらわれず誰とでも態度を変えずに接していこうとする態度を育てる。
評価の着眼点	みんなが楽しめるようにするために大切なことについて、やさい村の子ども達の気持ちや行動を話し合ったり、自分の経験を振り返ったりしているかどうか。
具体的な児童の姿	なすみたいに相手によって態度を変えると、悲しい思いをさせてしまうな。 自分のことだけでなくみんなの気持ちを考えることが大事だな。

時間	児童の活動	指導○および留意点【選択・決定】【当事者意識】◎評価（方法）※支援を要する児童への手立て
5分	1. 本時のめあてを確かめる	○前時の学習を振り返り、めあてを提示する。 ・前は、「友だちと助け合うために大切なこと」について考えたことをおさえる。 ・「みんなでピース」は決められた人とだけでよいかを問い、「いろいろな人」「だれとでも」という視点を捉えるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>めあて 「ピース」を目指すために大切なことを考えよう。 【本時】だれとでも 楽しく あそぶために 大切なことについて 考えよう。</p> </div>		
10分	2. 「やさいむらのこどもたち」の範読を聞き、なかまはずれにした理由について考える。	○自分の経験を振り返るようにする。 ・今回のお話には、なかまはずれにあった友だちが出てくることを伝え、自分の「なかまはずれ」の経験や、その時の気持ち・自分の行動について振り返るようにする。 【当事者意識】 ○範読をする。 ・どうしてなかまはずれにしたのかを考えながら聞くように伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>基本発問</p> <p style="text-align: center;">なかまはずれにしたのは どうしてかな。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【想定される児童の姿(発言)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土がついている野菜と、土がついていない野菜 ・土の上で育つ野菜と、土の中で育つ野菜 ・ちがいがあから。 </div>		
20分	3. 最後にみんなが笑顔で遊	○やさいむらのこどもたちが、最後、笑顔で遊ぶことができた理由について

10分	<p>ぶことができた理由について、立場を選び、ワークシートに書く。</p> <p>4.本時の振り返りする。</p>	<p>て、自分の考えをワークシートに書くようにする。 【選択・決定】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中心発問</p> <p>さいごに、みんなが えがおで あそぶことが できたのは どうしてかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人の言動をもとに考えさせる。 ・ペアで交流するようになる。 ・全体で交流するようになる。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【想定される児童の姿(発言)】</p> <p><なす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちに嫌なことを言ってしまったけど、きちんと謝ることができたから。 ・みんなで遊んでみると楽しいことに気づいたから。 <p><トマト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちがどんな気持ちか、考えていたから。 <p><きゅうり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中で気づいて友だちに注意できたから。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>補助発問</p> <p>きゅうりの言った「ちがいはよりだいじなこと」ってなにかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【想定される児童の姿(発言)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土の中でも外でも同じ野菜の仲間。 ・だれとでもなかよくあそぶ。 <p>○自分がこのなかまはずれの場面にいたとしたら、3人のような行動ができるか考えるようにする。</p> </div> <p>○めあてに沿って、振り返りをするように伝える。 【当事者意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切だと思ったこと、これからの自分について振り返りを書くようにする。 ・数名の児童の振り返りを全体で共有する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【想定される児童の姿(発言)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけではなく、相手の気持ちを考えること。 ・誰かが困っていたら、声をかけること。 </div>
-----	---	---

6. 学習指導過程 (4/4)

関連する内容項目 C-13 公正、公平、社会正義 B-10 友情、信頼

1 題材名「みんなでピース」のクラス作り大作戦 学級活動(2)イ よりよい人間関係の形成

2 題材について

- (1) 児童の実態(略)
- (2) 題材設定の理由

本題材は、学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の内容「イ よりよい人間関係の形成」として計画した題材である。事前の道徳科の学習で、児童は自己の経験を振り返ったり友達の話の話を聞いたりしながら、「クラスにとってよいことを進んでしよう」「困っているときは助け合おう」「誰とでも楽しくすごそう」という気持ちになっている。本時では、誰もが安心して関り、お互いを高め合うようなクラス(「みんなでピース」のクラス)にするために、児童が自分たちでできそうなことを考え、話し合うことを通して、お互いを大切にするような行動がとれるようにさせたい。

3 第1学年及び第2学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿【観点】(評価方法)
道徳科の授業について振り返る。	誰とでも助け合うために大事なことについて考えるように知らせる。	◎振り返りを記述し、誰とでも助け合うために大事なことについて考えようとしている。【主体的態度】(ワークシート)

5 本時のねらい

自分達のクラスを「みんなでピース」のクラスにするために、誰とでも助け合う方法について話し合うことを通して、今後の友達との関わり方で気を付けることを考えられるようにする。

本時の展開

時間	児童の活動	指導○及び留意点・【選択・決定】【当事者意識】 ◎目指す児童の姿【観点】(評価方法) ※支援を要する児童への手立て	資料
導入 つかむ	1. 道徳科の学習を振り返る。	○道徳の学習を想起させ、進んで良いことをすることや、困っているときは助け合うこと、誰とでも仲良くすごすことの大切さを再確認するようにする。 ・みんなが助け合い協力する「みんなでピース」のクラスになっているかを問い、児童がクラスの実態を把握できるようにする。【当事者意識】	iPad (教師用)
5分	2. 本時のめあてを確認する。	○「みんなでピース」のクラス作りのためにできることはないか問い、児童の課題解決の必要感を高めながらめあてを位置付ける。【当事者意識】	
展開 さぐる	めあて 「みんなでピース」のクラス作りのために、自分には何ができるかを考えよう。 3. 「みんなでピース」のクラス作りのために大切なことを把握する。	○「みんなでピース」のクラス作りのために大切なことを児童の発言を基に具体的な方法を考える際の視点となるようにする。 【想定される児童の姿】 ・友達の困りに気づく。・困っている友達を助ける。 ・友達を笑顔にする。・自分の言動を振り返る。 ・児童の発言を基にクラゲチャートを作成し、視点ごとに色分けして児童に配布する。 ・その後の話し合いが進むように視点は4つまでに絞る。 ・児童の発言を板書に整理し、次の話し合い活動の視点となる	iPad
20分			

見つける 10分 終末 決める 10分	4. 自分なり的手段で「みんなでピース」のクラス作りのためにできることを考える。	<p>ようにする。 ※大切なことが出てこなかったとき、例を出すことで考えられるようにする。</p> <p>○「みんなでピース」のクラス作りのために大切なことを視点に、どのようにしたらそれができるか具体的な方法を自分なり的手段で考え、話し合うようにする。【当事者意識】【選択・決定】</p> <p>・視点ごとの方法をクラゲチャートに書くことで、発表するようになる。</p> <p>【想定される児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の困りに気づく。→周りを見る、話しかける。 ・困っている友達を助ける。→勇気を出す。友達に注意する。 ・友達を笑顔にする。→話しかける。いいところを見つける。 ・自分の言動を振り返る。→めあてをきめ、振り返りシートを作る。 <p>・一人で考えたり、同じ視点の人と話したり、違う視点の人と話したり、考える方法は児童が選ぶようにする。【選択・決定】</p>	iPad
	5. 全体で「みんなでピース」のクラス作りのためにできることを話し合う。	<p>○「みんなでピース」のクラス作りのために視点ごとに何ができるか問い、個々の考えを話し合うことで、後で自分が取り組むことを決めることができるようにする。【当事者意識】</p> <p>・できることを考えた理由を問う。</p> <p>※児童から出なかった対応については、他学年の「みんなでピース」につながる工夫をインタビューするなど、教師が伝える。</p> <p>◎「みんなでピース」のクラス作りのためにできることを考えている。</p> <p>【思考・判断・表現】（発言、ロイロノートの記述）</p>	iPad
	6. 自分に何ができるかを決め、本時の学習を振り返る。	<p>○これまでの学習から自分のこれまでの生活をふり返り、「みんなでピース」のクラス作りのために自分でできることを決め、ロイロノートに書くようにし、その後ペアや全体で認めていくようにする。【当事者意識】【選択・決定】</p> <p>・全員が発言できるようにペアで話すようにする。</p> <p>◎自分の課題に合ったできることを決めている。</p> <p>【思考・判断・表現】（発言、ロイロノートの記述）</p>	iPad

事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】（評価方法）
自分の活動を振り返る。	事後に振り返る機会を設定し、実践化に向けて継続した取組になるように助言する。	◎クラスの友達を大切にするための見通しをもち、自己の課題を改善しようとしている。 【主体的態度】（ワークシート）

板書計画

7/16 「みんなでピース」のクラスづくり大きくせん

つかむ

さぐる

④ 「みんなでピース」のクラスづくりのために、じぶんにはなにができるかを考えよう。

○すききらいかんけいなくだれとでもたすけあう
↓
みんなのことを考えるゆう気を出してうごく大切！

「みんなでピース」のクラス作りのためにできることはあるかな？

○「みんなでピース」のクラスづくりのためになにが大切かな
・こまっている人に気づく ・こまっている人をたすける ・友だちをえがおにする ・自分をふりかえる

○そのためにできることは何か

見つける

きめる

○こまっている人に気づくために
・まわりを見る
・声をかけてたしかめる
・こまっていることをつたえる

○こまっている人をたすけるために
・自分から動く
・友だちときょうりょくする
・先生にそうだんする

○友だちをえがおにするために
・話しかける
・いっしょにあそぶ
・いいところを見つける

○自分をふりかえるために
・せいちょうノートでふりかえる
・毎日できていたかチェックする
・めあてをきめる

⑤ 「みんなでピース」のクラスづくりのために、じぶんだったらなにができるかな。